

社会貢献に生きた企業人

米山梅吉

令和6年3月4日

横浜歴史研究会 大瀬克博

米山梅吉記念館

静岡県長泉町の記念館で米山梅吉の足跡、著書など展示顕彰する。

功績

日本初の信託会社設立
ロータリークラブ創設
三井報恩会初代会長として社会事業推進
青山学院緑岡小学校の創設



米山梅吉記念館

幼少期から青年期

明治元年 東京に生れる
明治5年 三島に転居
明治14年 沼津中学校 漢学、漢詩、英語など学ぶ
明治16年 上京 東京英和学校
明治21年 アメリカへ留学 恩師・本田庸一との出会い



留学時代の
米山梅吉

勝海舟との出会い

明治28年に帰国、勝海舟と師弟の交わりを持つ。明治29年にアメリカでの研究結果を素に著作本「提督ペルリ」を出版する。題字は勝海舟の自筆である。

三井銀行

明治30年、井上馨の紹介で三井銀行に入行する。翌年に池田成彬と欧米を視察、後に池田と米山は銀行の中核となり活躍する。明治42年に常務取締役役に就任、大正3年には「新隠居論」を雑誌に発表した。

ロータリークラブ

アメリカで始まった国際ロータリーの思想を日本に導入し、大正9年に日本初の東京ロータリークラブを創立し初代会長に就任した。東京ロータリークラブは昭和27年に米山基金を設立し日本への外国人留学生へ奨学事業を開始した。

三井信託銀行

大正11年の信託業法公布を受けて日本初の三井信託会社が設立され、米山が初代社長に就任した。その精神は「適正な利益の収受と顧客・社会への還元」である。

三井報恩会

昭和4年の昭和大恐慌で貧富の格差が増大し社会不安となった。昭和7年3月に三井財閥の総帥・団琢磨に続き、5月に首相犬養剛が暗殺される事件が発生した。このような時代背景を受け社会との共存共栄を図るため三井報恩会が設立され米山は初代理事長に就任した。

三井報恩会の主な助成事業はハンセン病療養施設、病院福祉、農村振興、社会教育、健民活動、学術研究など多岐にわたり、創立以来10年間の助成金額は1750万円、現在の150億円に相当する巨額なものであった。

青山学院初等部

昭和12年、米山は私財を投じ緑岡小学校と緑岡幼稚園を設立した。

小学校校長に梅吉、幼稚園園長に妻の春子が就任している。緑岡小学校は現在の青山学院初等部である。

禅に学ぶ

米山は二女三男に恵まれた。子煩悩であった。しかし、長男東一郎20歳、次男駿二は21歳で相次いで夭折した。梅吉は息子2人が埋葬された曹洞宗大本山総持寺の貫主を何度も訪れ教えを受けている。

米山の人間性

- ・信条；個人主義は善いが利己主義は悪い、情、理を尽くしても話が分からなければそれまで、仕事の遅拙はよいが悪質は困る
- ・時代の先端をいくオシャレ感覚
- ・厳しさと優しさを持った実業家
- ・徹底した礼儀作法

晩年

昭和13年に貴族院議員に勅選される。

昭和20年に長泉に帰郷。

昭和21年4月 逝去 享年78歳

参考文献

- 1) 「社会貢献の先駆者 米山梅吉」戸崎肇著 芙蓉書房
- 2) 「一日本のロータリークラブ創設者米山梅吉ものがたり」柴崎由紀 銀の鈴社
- 3) 「米山梅吉記念館館報」米山梅吉記念館
- 4) 「人物写真集・米山梅吉翁」米山聡、大川孝昭